

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会議の前や、毎朝の引継ぎ前に唱和し、職員全員で確認し実践している。	事業所独自の理念を作成しており、玄関・リビングに理念を掲示し、理念の実践ができるよう毎朝の申し送り時、毎月の定例会議時に理念を復唱するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会を年1回開催している。保育園や小学校との交流、毎月の傾聴ボランティアの方々の交流も定着している。	事業所広報を町内に回覧したり、ホームに保育園児や小学生に来てもらったり、町内のお祭りの際に神輿に寄って頂くなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回地域新聞を回覧し、認知症についての情報や、事業所での活動を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの和室にて会議を開催し、入居者様の様子を見ていただきながら行っている。市役所・地域の方々・家族の方に参加していただき、意見交換や助言をいただき会議を進めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長やご家族、民生委員や市の担当者から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例について助言をいただいたり、部内研修の講師をお願いしている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、部内研修を行い職員全員で周知している。身体拘束をやむを得ず行っている方については、ご家族の同意をいただき、また、毎月の定例会議にて、現状の確認している。	玄関の施錠も夜間のみとするなど、身体拘束を行わない方針が徹底されており、身体拘束に関する内部研修も行い、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、部内研修を行い職員全員で周知している。日々の業務の中で職員同士声掛け合い意識を高めている。	身体拘束同様に虐待防止についても内部研修を行い、職員の理解を深めており、虐待の防止に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方が1名おられる。権利擁護について、学ぶ機会が少ない。今後研修会に参加して支援に生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に契約書を確認していただき、契約時説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いたりアンケートを実施し意見や要望を伺っている。アンケートの結果については集計し回答している。入居者については、日々の会話の中で聞き出し、日々のケアに生かしている。	運営推進会議の場だけでなく、ご家族へのアンケートの実施や面会時・電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、ホームの家族会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会議にて、職員の意見を聞いている。また必要に応じて職員との面談を行い、意見要望を確認している。	毎月の職員会議の場で職員の意見や要望を確認しています。また、個人面談も年に2回実施し、職員からの意見を吸い上げられるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員人事考課制度を導入し、事業部内の目標に対し、職員個々の目標を設定し業務に就いている。各自仕事にやりがいを持てるように、職場環境や、勤務状況等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修参加や資格試験等、積極的に受講できるよう勤務に配慮している。内部研修の担当を任せ、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を持つ機会がないが、法人に「GHはらどろり」があり助勤職員として業務についてもらった時期があった。情報を得ていた。今後は交流の機会を持っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、困っていることや不安など気軽に話していただけるよう心がけている。また、本人と一緒にいる時間を持ち、何気ない会話から、不安や要望を聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望を聞き出し、また家族の希望や家庭での様子を聞き出し、和やかに話すことでコミュニケーションを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているのか、不安なのか入居前に話し合いをしてサービスを受けやすいように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を持ち、作業やお手伝い等をしていただき、お互いに支えあって生活をしている関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援すると共にコミュニケーション取りながら、情報の共有を行っている。	ご家族に事業所広報を定期的に送付しているほか、ご利用者の生活の様子をまとめた個別のお手紙も居室担当職員より定期的に送付しており、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方の面会時には、居室やホールでゆっくり過ごしていただけるよう心がけている。	ご家族にもご協力して頂き、定期的に面会に来ていただいたり、馴染みの美容室へ出かけたり、自宅への外泊に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性、考え方を理解して入居者同士の関係がうまくいくように共有の場所、作業を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、これまでの関係を大切に連携できるように体制が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や言動の中からお本人の思いを確認し、情報収集するように努めている。ご本人の立場に立って考えることを意識し、ご家族や職員間で情報交換している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員間で共有され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りを行い、これまでの情報を得ている。日々の生活の中での会話や行動から、その人らしい生活とは何かを情報収集するように努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、日々のやりとりの中で得られた情報や、ご利用者の状態の変化を確認し、居室担当職員が定期的にあセスメントシートを見直しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日常生活の様子を日々観察し、介護記録や職員間での情報収集を行い、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の引継ぎ時や、定例会の時など、利用者様に関する意見交換や情報共有を行っている。サービス担当者会議にご家族様に参加していただき、出席者の意見を参考にしたケアプランになるよう作成している。	サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、モニタリングも定期的に居室担当職員が行うなど、それぞれの意見を取りまとめケアプランを作成しています。	調査時点でサービス担当者会議録の開催場所や時間が未記入であったり、元号が変更されていないものもありましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録に記入し、日々の変化に気づき、スタッフ間で情報を共有し、意見交換を行い実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の心身の状態やニーズを把握するように努め、その方に合った必要と思われる支援を職員間で話しあったり、ご家族に確認、協力をしていただき、実践に取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティア訪問や保育園児・小学生の訪問、地域行事に参加し交流を行っている。地域交流会を開催し、地域の方を招待している。地域新聞の発行や運営推進会議で情報発信・情報共有を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診前には入居者の状態を報告している。往診時には、看護師計画作成担当者が付き添い、診察情報を共有している。ご家族が往診に立ち会う方もいる。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、事業所にも往診に来ていただいています。必要に応じ事業所から情報提供を行い、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の状態の変化に注意し必要時看護師と連絡を取り支持を受け、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供している。早期退院に向けワーカーと連絡を取り、退院に向けて情報交換をしている。退院後は、主治医と連絡を密にしている。全職員に情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合う機会を設け、ご家族の要望を重視し、主治医と連携を密にし指示を受けている。指示を受けたことを、全職員に周知している。	契約段階でご家族の意向を確認しており、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え支援していきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にてAEDの使い方緊急時の初期対応の研修を行い、事故発生時の対応に備えている。必要時には、看護師からの指導を受けている。	職員にはAEDの使い方・緊急時の初期対応の研修を受けてもらっており、必要時には看護師からも指導を受ける等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練を行っている。2年に1度は消防署の立ち合いで行っている。昨年より、水害時の避難訓練を行っている。運営推進会議にて避難場所の確認、その他情報交換を行った。	夜間の火災や水害を想定した避難訓練を定期的に行っており、ご利用者別の避難誘導の方法も検討する等、災害時に適切な対応ができるようにされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに寄り添い、声掛けをしている。ご本人様の意思を尊重しながら個別の対応を心掛けている。	ご利用者への言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご利用者の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報やホームページへの写真の掲載についても、契約時に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で、やりたいことや希望していること、食べたいもの等を聞きながら、一緒に活動を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間に決まりはなく、その都度ご本人様に確認しながら行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合わせて、整髪や髪染め・化粧等の対応をしている。美容院や床屋への外出も行っている。また、出かける際の服選び等も声掛けしながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等のお祝い事や行事等の食事はご利用者様の意見を取り入れ、準備や手伝いをさせていただいている。日々の中でもその人に合った作業を手伝っていただいている。	ご利用者のできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑で野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒に外食に出かけたり、笹寿司作りを行うこともありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立をメインに畑で収穫した季節の野菜を多く取り入れた食事を提供している。10時のお茶は、飲みたいものをお聞きし提供するようにしており、積極的に水分を摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けしている。必要に応じて、介助させていただき、できない所は手伝うようにしている。月2回、歯科衛生士による指導も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄リズムを確認しながらできるだけトイレで排泄できるよう、声掛けや誘導を行っている。	ご利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも各居室にあり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の確認を行い、食物繊維が多い食材を使用したり、こまめな水分補給・散歩やレクリエーション等で身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合ったタイミングを重視し、声掛けにも工夫し、楽しく入浴ができるよう支援している。	入浴を嫌がるご利用者にもうまくタイミングを見計らい、入浴していただけるようにしています。また、ホームの浴室での入浴が難しい方には、隣のデイサービスの特殊浴槽での入浴支援も行えるようになっていきます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々それぞれに合わせた対応を心掛けている。日中は身体を動かしていただき、夜間良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴を把握し、薬の処方箋に目を通して確認している。 配薬は、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることをしていただき、感謝を伝えている。 年間行事計画を作成し、外出や外食、買い物等に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のごみ捨て、野菜の収穫、散歩等その方の希望に添っている。季節に合わせた場所や行事に出かけて気分転換を図っている。イベントには、家族ボランティアの方の協力を得ている。	ご利用者と一緒に外食や買い物に出かけたり、季節に合わせたお花見や紫陽花見学、蓮見学などのイベントとしての外出も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には必要時支払いを行っている。家族が希望される方については事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて、事務所内にある電話を使用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールや居室を毎日掃除を行い清潔を保っている。ホールには、敷地から摘み取った花を飾ったり、季節にちなんだものを飾り、生活に潤いを持たせている。	リビングは広々として開放感があり、和室もあり、ソファも置かれてあり、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるスペースとなっています。ホームに飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々なことに配慮して、座席を配置している。また、自由に座れ談話できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの家具や好きなものを置き安心して暮らせるよう配慮している。	居室には、ベッドやテレビ、机やタンスなどの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真を飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう、家具の配置や個々の押し車等の置き場所にも配慮している。洗剤等の置き場所に配慮し安全に生活できる環境づくりに心かけている。		



**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない